(様式３) 目的設定表(令和03 **年度)　予算区分：**通常　　**要求区分：**令和 3年度 6月補正予算　　**確定日（**令和03 **年** 07 **月** 06 **日)**

事業ｺｰﾄﾞ	04060108		**政策コード**	04	**政 策 名**	秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略			
事 業 名	フェリー秋田航路緊急支援事業		**施策コード**	06	**施 策 名**	交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築			
			指標コード	01	**施策目標(指標)名**	秋田への流動を支える幹線鉄道等の整備促進と利便性の向上			
部 局 名	観光文化スポー	**課 室 名**	交通政策課	**班名**	調整・広域交通班	**(tel)** 1282	**担当課長名**	小松勝統	**担当者名** 畠山崇

評　価　対　象　事　業　（　計　画　）　の　内　容　　**事業年度** 令和03**年度** ～ 令和03**年度**

1．事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)

フェリー秋田航路は、秋田県の貨物輸送と旅客輸送を担う重要な海上交通ネットワークとして機能しているが、コロナ禍により旅客需要の大幅な減少が続いており、フェリー事業者から岸壁使用料等の減免に関し要望が出されるなど、フェリー事業者の経営状況は厳しいものとなっている。今後も旅客需要が回復しない場合には、減便（抜港）される恐れがあることから、秋田航路の維持に向けた速やかな対応を取る必要がある。

2．住民ニーズの状況

①ニーズを把握した対象

■ 受益者　□ 一般県民　**(時期：** R03 **年** 01 **月)**

②ニーズの把握の方法

□ アンケート調査 □ 各種委員会及び審議会 ■ ヒアリング □インターネット

■ その他の手法　**(具体的に** 事業者からの要望 **)**

③ニーズの具体的内容

岸壁使用料等の減免に関する要望（令和３年１月：口頭による相談・要望、５月：要望書の提出）

◎把握してない場合の理由及び今後の方針

①理由	
②今後の方針	

3．事業目的（どういう状態にしたいのか）

コロナ禍により旅客利用者が大幅に減少しているフェリー秋田航路を運航するフェリー事業者に対して支援を行い、航路の維持を図る。

(重点施策推進方針との関係)　● 重点事業として要望　○ その他事業として要望

4．目的達成のための方法

①事業の実施主体　県

②事業の対象者･団体　フェリー事業者

③達成のための手段

フェリー事業者に対し、事業者が県に支払う令和３年４月１日から令和４年２月２８日までの入港料及び岸壁使用料の４５％を補助する。

④比較した代替手段及び選択した手段の有効性

他の手段として利用促進事業を検討したが、コロナ禍にあって県として県外との往来自粛を求めることも多く、十分な利用促進事業を展開できないことから、今回は事業者支援に係る交付金を活用し、事業者に直接支援するものである。本事業は、事業者の入港時の負担になっている固定費の一部を支援することにより、減便（抜港）のリスクを軽減し、路線の維持に繋がる有効な手段である。

5．事業の全体計画及び財源　　**単位(千円)**

順位	事 業 内 訳	左 の 説 明	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	全体(最終)計画
01	フェリー秋田航路緊急支援事業	秋田港において、フェリー事業者が支払う固定費の負担軽減を図るため、フェリー事業者に対し、秋田港の入港料及び岸壁使用料の一部を補助する。	16,800	0	0	0	0	0	16,800

財源内訳	左 の 説 明							
		16,800	0	0	0	0	0	16,800
国 庫 補 助 金	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	16,800	0	0	0	0	0	16,800
県 債		0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0
一 般 財 源		0	0	0	0	0	0	0

６．事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果	フェリー事業者の負担軽減が図られるとともに、フェリー秋田航路が維持される。

指標Ⅰ

指標名	秋田港への運航便数	指標の種類
指標式	１週間当たりの秋田港への運航便数（苫小牧、新潟、敦賀）※１～３月を除く	●成果指標 ○業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指　標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
目標a		0	13	0	0	0	0	
実績b	13	13						
東　北	0	0						
全　国	0	0						

②データ等の出典

フェリー事業者による運航計画（ダイヤ）

③把握する時期　● 当該年度中 01月　○ 翌年度　　月　○翌々年度　　月

指標Ⅱ

指標名		指標の種類
指標式		○成果指標 ○業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指　標	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	最終年度
目標a		0	0	0	0	0	0	
実績b	0	0						
東　北	0	0						
全　国	0	0						

②データ等の出典

③把握する時期　○ 当該年度中　　月　○ 翌年度　　月　○翌々年度　　月

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性

フェリー秋田航路を維持していくためには、コロナ禍により厳しい経営状況にあるフェリー事業者の負担軽減を図っていく必要があることから、本事業の必要性は高い。

住民ニーズに照らした事業の必要性

本事業は、事業者から出された岸壁使用料等の減免要望に応える形での支援を行うものであり、妥当である。

事業の県関与の必要性

□ 法令・条例上の義務　□ 内部管理事務　□ 県でなければ実施できないもの

■ 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

フェリー事業者が県に支払っている使用料への一部補助であること、また、フェリー秋田航路は、秋田県の貨物輸送と旅客輸送を担う重要な交通ネットワークとして機能しているほか、災害時の人・物資の緊急輸送を担う等、県全体にとって社会・経済的に不可欠であることから、県が積極的に関与する必要がある。

政策評価委員会意見	重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定
	○重点事業　　○その他